

さわかせ

号数 第 3 3 5 号
発行日 令和 5 年 5 月 14 日
発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail: utubo1905@gmail.com



新調された鯉のぼりと境内に咲く花桃(4月4日)

天地金乃神大祭をお迎えして

教会長 鍵山 公 生

平成5年度の天地金乃神大祭を、皆様と共々にお迎えさせていただくことができました、誠にありがたいことでございます。

コロナ感染症の騒ぎも落ち着き、日常の生活に戻ってまいりました。その中で毎年気温は上がり、咲く花の時期も年々早くなっています。世の中の気候変化があっても、その時期が来ますと必ず草木は芽を出し、花を咲かせてくださいます。

教会の境内にも種々の草花が咲き、心の安らぎと天地の息吹の素晴らしさを感じます。そして私たちの身体も元気に活動させていただけるのです。朝の目覚めと同時に一日の働きが始まることは、真にありがたいことでございます。

私は3月に80歳の誕生日を迎えさせていただき、ご本部月参拝時に、金光様にそのお礼のお届けをさせていただきました。金光様は特別に「御神米、鍵山氏」



と記したお書き下げをくださり、「それはおめでとうございます！」とって、喜びの言葉をかけてくださいました。私のような至らぬ者を、よくぞここまでお生かしくだされ、お使い頂いて参りましたことは、ありがたく幸せなことでございます。これからも命のある限り、私に与えられたお役目を全うさせていただかねばと、身の引き締まる思いでございます。

本年は教祖様140年のお年柄であり、併せて当教会におきましては初代教会長・和田安兵衛先生80年（12月3日）のお年柄を迎えます。在籍教会信奉者におきまして、教祖様にも、初代教会長先生にもお喜びいただける真の信心を進め、人の助かるご用にお使いいただきたいと願っています。

人も我が身もみな神の氏子

隣の土地に高層マンションが

教会の東隣に12階建てワンルームマンションが建設されることになり、今年の1月より工事が始まりました。教会周辺には高層マンションが林立しだんだんビルの谷間になってきました。

韃教会の土地は戦前に幼稚園があった場所で、その当時の頑丈な基礎が残っていて、現在の広前建設時もそれを掘削するのに苦労しました。隣の土地にもその基礎が繋がっていて、境界線から僅か50センチ程離れた地下を6メートル以上も掘削するのですから、境界線に建てられていたブロック塀は傾き、地面には亀裂が生じ、毎日土埃が舞い上がり、塀に沿っているガス管にも危険が生じてきました。このことは事前から十分予測して、業者に申し出ていましたが、全く無返答で工事が開始されました。

現在は基礎工事までが完了し、大きな石を含むガラを、ダンプカーで基礎の埋め戻しの為に落された時は、山崩れが起きたのかと思うほどの騒音と振動に驚かされました。

このようなことで私たちは今後どう対処すればいいか、工事の中止など望むことはできないし、ただ我慢するしかないのかと思案しつつ御祈念をしておりましたところ、以前次のような話を聞かせていただいたことを思い出しました。



人のことを祈る

布教当初借家であったある教会が、新しい土地を借りて広前の新築をされました。その建物の北側は約10メートル程の崖になっていて、崖の上に陶器を焼く工場がありました。その当時は石炭を燃料にして、3日に一回ほど火が入り、一昼夜かかって焼き上げるのでした。石炭は燃えると、灰にはならず、ガラガラ

した燃えカス（窯クソ）が残り、長い柄のついたシャベルで掬い出し、そして次の石炭を放り込んで焼き続けるのです。上の窯焼きの人にとっては、窯のすぐ右側が崖淵ですから、その窯クソをヒョイトスコップで放れば、その崖へコロコロ転がっていくということで、まことに便利な崖があるわけです。最初の頃は、下の方までは転がってきませんでしたでしたが、徐々に土手の窪みや溝が埋まってしまい、建物の近くまで転がってくるようになりました。時々、まだ赤く炎の出ているものもあり、夜などは赤い火の玉のように見える窯クソが、土台に当たる時もありました。

信者さんの中には、「ひょっとすると、せつかく新築された広前の建物に火が付いて火事にならないか」と心配する人もあって、役員会のおりに、「これは黙ってはいけなから、上の工場へ交渉して、何とか他の所へ捨ててもらおうようにしなければ」という話になりました。さて、だれが代表して交渉に当たるか、ということになった時、「上の焼き手はんにゃ たつの人は、般若いれずみの辰たつと言われて、背中に大きな般若の刺青がある評判の人で、下手に文句を言いに行くと、今度は燃えカスではなくて、もっと燃え盛るのを放るかも知れん」という意見もあって、なかなか結論が出ません。そこで、教会長先生は「まずは、このことを御祈念させて頂きましょう」と言われ、その日の会合は終わりました。

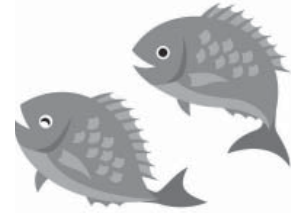


それから先生は、朝早く起きて顔を洗うと、外へ出て、北の崖に向かって、十数分祈っておられました。教会ではご神前で神様にお参りするのが普通ですが、土手に向かったの御祈念をしてから、一日の日課が始まり、その日のご用が終わって寝る前に、また暗い土手に向かって祈るということをして、続けておられました。それでも窯クソはよく落ちてきました。それから半年位してからどうしたことがピタッと落ちてこなくなりました。どうして止まったのか、始めは不思議に思いましたが、それからまた半年くらい経って、皆もそのことは忘れていました。

その後のある日、教会の玄関で「こんにちは！」と威勢のいい声が聞こえるので、先生が玄関へ出てみると、大きな鯛を持った人が立っております。「何でしょうか」と聞きますと、「実はこの近くで魚屋を始めることになりましたのでお近づきの印に、これを神様にお供えしていただきたい」と皿にのった大きな鯛を差し出されました。先生は「それはおめでとうございます。しかし見ず知らずの方からこんな立派なお魚を頂くわけには」と遠慮しておりました。すると、

「私は辰五郎と申すもので、この裏で、昨年まで窯焼きの仕事をしておりました。実はこちら様に大変ご迷惑をかけていたことを、途中で気付かしまして、今日はそ

のお詫びと、店開きのお願いに参った次第です」と言われ、続けて、「一昨年の冬の頃。いつものように窯に火が入って、窯クソを放りだしながら、崖の下を見ると、夜明け前のまだ暗いときでしたが、黒い人影が見えました。下に金光さんとか言う教会ができたと聞いたが、教会の先生も立ち小便するのかなと思いました。それから春が近づいて、日の出が早くなり、よく見えるようになり、拝んでいる姿が見えました。こちら側は北、金光さんというのは、鬼門を拝む宗教かなと思いました。お彼岸も過ぎたある明るい朝のこと、いつものように拝んでおられる先生の頭が朝日にピカッと輝いて、後光が差しているようで、(先生は若禿^{わかばげ}で前半分髪が無かったのです)ハッとしました。鬼門を拝んでいると思っていたけれど、鬼門の方ではなく、鬼門はワシのことじゃと気が付きまして、何とご迷惑なことをしてきたなあと思いました。それからは窯クソを横へ溜めておいて、もっと上の方の窪地へ一輪車で運ぶようにしました。そのあと暫くして、歳も歳でするので退職して、半年ぐらい休養してから、この近くで魚屋を開店することになりました。そのような次第でどうぞよろしく」と今までのいきさつを話されたのです。これを聞いた先生は、さぞかし嬉しかったでしょう。



先生は当時のことについて述懐され、「自分も最初は、どうぞ上からこちらへ向けて捨てませんように。あまり窯が焼けませんように。暫くはそんな祈りであったけれども、ふと、これでいいのかという思いに駆られ、祈りが変わり、上も瀬戸物を焼く大変な仕事をしておられる。どうぞ、焼く品物がよく焼けますように、商売も繁盛しますように。勤めている人達、火を扱う焼き手さんの怪我、過ちのないように、と祈りが変わった」と申しておられ、先生の願いがそのように変わった頃と、あの人が先生の頭がピカッと光ったのを見た頃と、同じであったとは言えませんが、両方の心の変わり方に何か不思議なものを感じるのです。

金光教祖様は「自分のことは次にして、人の助かることを先に願えよ。そうすると自分のことは神がよいようにしてくださる」とお教えくださり、人のことを思い、他を思いやることがいかに大切か、そうすれば人も自分も助かる世界が生まれてくると思うのです。(柴田道雄師の話より)

人も助かり、神様もお喜びくださる願いをもって

さて韃教会の隣のマンション建設にあたり、騒音や振動、地盤沈下など既に被害を被っていますが、上記の話进行を思いだし、「そうだ、今までは迷惑をかけられないように、早く工事が終わって落ち着いた生活に戻りますように」などと自分のことばかり願っていましたが、工事をするときはお互い様ですから、これから

は人のことを恨んだり、腹を立てずに、「工事が差し支えなく進み、作業する人達に怪我過ちなく、立派なビルが無事完成されますように」と願わせていただこうと気づき、朝夕教会の門の開閉時に、そのようにご祈念させていただくことにしました。

そう祈っていたら工事業者から菓子折を持って詫びに来られたということではありません。工事は来年の2月まで続くそうで、業者からの真心の申し出などを期待するのではなく、これからも祈り続けていきたいと思っています。その願いによって業者の方も助かり、神様がお喜びくださる生き方を進めたいと願っております。その結果、自分たちの心が一番安らぎ安心な生活ができることになるでしょう。 (教会長教話よりー5月1日)

メールアドレス変更のお知らせ

教会のメールアドレスが変更されました。登録されている方は変更をお願いいたします。

新メールアドレス utubo1905@gmail.com

勧学祭のお届け

宮崎県、旭中学2年生 栗山 ^{このは}木花

私は小学校から中学校という新しい環境で過ごして、無事一年が経ったことに感謝いたします。

昨年度は多くの良い出逢いがあり、多くのことに挑戦できたと思っています。また、少し努力ができ、成長できたかなと思います。ありがとうございます。

自分に両親や友達、先生という私を支えてくれる多くの人があること、そして、学校に行くことができ学べることなど、全てが有り難く、あたり前ではなく、幸せなことに気づかされました。

来年度も全てのことに感謝でき、自分がどれだけ恵まれているのかがしっかりと分かり、正しい判断ができるようになり、そして将来、誰かのお役に立てる立派な人間になりますよう、今年度もよろしく申し上げます。

おたより



神奈川県在住 渡辺孝志

拝啓 風薫るさわやかな季節となりましたが、先生はじめ御教会の方々はお変わりございませんでしょうか。(中略)

世間的には、コロナ過という状況から徐々に元の状態に戻りつつありますが、わたしの職場では、従来通り、リモートワークは継続され、週に一回だけ会社に出社し、残りの日は自宅で作業という状態を続けさせていただいています。

仕事を始める前に、近くを流れる鶴見川の河原を自転車で少し走って運動した後、仕事を始めることができ、充実した仕事環境の中で、過ごさせていただいています。

妻は昨年秋に、MSS銀行へ転職しましたが、はじめは、前にいたMU銀行と行風が異なり、いろいろ戸惑うことも多いようでしたが、そういったことにも慣れて、順調に仕事をさせていただいています。

さて、この5月6日で、私が膵臓の病気である「1型糖尿病」になって丁度10年前になります。10年前、この病になったときは、生死の間をさまよいましたが、意識が戻り、その後も特に後遺症もなく、今日まで無事、元気で日々を過ごして、改めまして、神様に感謝、御礼申し上げます。

ここで少しこの病気のこと、身体のことを申しますと、「1型糖尿病」というのは、膵臓から「インスリン」という血糖値を下げるホルモンが一滴も出なくなる病気で、今でも一滴も出ていませんので、ご飯を食べる前に、必ずインスリンを入れてご飯をいただく必要があります。それさえすれば特に普段の生活は、今までと変わらないのですが、厄介なのが食事の内容に対して、入れるインスリンの量が少ないと高血糖になり、多すぎると低血糖になり、いろいろと困るのですが、その対応についてはすっかり慣れました。でもこの病気になる前は、そういったインスリンの量も、きちっと自動的に、必要な量が分泌されるという。

(右側) 元旦祭に神奈川県から参拝されました。(令和5年1月1日)

(ご飯のときに必要なインスリンの量は、多めの時で0,1mlと米粒ほどの、ほんの僅かな量なのです！)

本当にすごいことだなあと、よく思わせていただいているのですが、このインスリンの話は身体のほんの一部のことで、そういったことが、沢山、たくさんあって、このわたしの身体ができていると考えると、まさに、今回の大祭の講師先生のお題にあります「人間は小天地」ということを、身をもって感じさせて、本当に有り難いことだなと思わせていただいています。

新型コロナウイルスについては、だいぶ収束してきた状況ですが、寒暖の差が激しい季節でもありますし、皆様、十分にお気をつけの上、お過ごしください。 敬具

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
(5月20日・6月24日ともに午前10時30分より)

春の合同墓前祭
3月26日

春の合同墓前祭が、瓜破霊園において執り行われました。雨が降る中でしたが、皆で協力してテントを張り、ご祭典をお仕えされました。



5月14日(日) 午前10時30分より

天地金乃神大祭奉行

祭典後説教、講題：「人間は小天地」

講師：佐野教会長 福嶋 光 先生

令和5年5月

19日(金) 信徒共励会 午前10時

20日(土) 月例霊祭執行 午前10時30分



6月

1日(木) 月例祭執行 午前10時30分

4日(日) うりわり墓参 午前7時

10日(土) 月例祭執行 午前10時30分

11日(日) 教団独立記念祭 御本部参拝

16日(金) 信徒共励会 午前10時

24日(土) 月例霊祭並びに

夏越感謝祭(人形行事)執行

午前10時30分

7月

1日(土) 月例祭執行 午前10時30分

勸学祭
4月1日

子どもたちがこれまで、無事成長させていただいたことの御礼と、世のお役に立つ人にならせていただけますよう祈念させていただく祭典、「勸学祭」が仕えられました。祭典後、直会として学用品を頂きました。また本年は境内にてガーデンパーティーが行なわれ、焼きそば・焼き鳥・餃子などをいただきました。

